

2023 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」 助成公募決定のお知らせ

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストが公募した「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成について、計 7 件の企画が採択されました。選考委員についても併せてご紹介いたします。

2022 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」 助成公募選考委員（あいうえお順）

- 田中 優（未来バンク理事長）
- 野島靖智（株式会社すいてん ディレクター）
- 古瀬繁範（地球と未来の環境基金理事長）
- マエキタミヤコ（サステナ代表）
- 宮田秀明（摂南大学名誉教授／環境科学、食品衛生学、公衆衛生学）
- 安田節子（食政策センター ビジョン 21 主宰人）
- 山田敏郎（金沢大学名誉教授／化学工学、蜂群崩壊症候群研究）
- 星川 淳（アクト・ビヨンド・トラスト代表理事）

子どもたちのオシッコと母乳のネオニコ調査（調査・研究、広報・社会訴求）

れんげじオーガニックマーケット（申請者：杵塚 歩）

藤枝市内と近隣市に居住する子どもと母親を対象に子どもの尿と母親の母乳を採取し、ネオニコチノイド系農薬の残留を調査。この時に参加者の普段の食事内容などアンケート調査も実施する。調査結果を共有し、食物と農薬の身体への残留の関連を可視化する。それと並行してネオニコチノイド系農薬など暮らしの中にある農薬や化学物質がもたらす健康や環境への影響などの学習会を講師を招いて実施し、正しい知識を身につけ普段の食や暮らしのあり方を見直すきっかけを作る。

デトックスプロジェクトで疑念の残る私設井戸水の調査とオーガニック関連の店舗とのコラボによるカエルとのトーク動画の拡大（調査・研究、広報・社会訴求）

くまものタネと食を守る会（申請者：間 澄子）

- 1) 飲料水に関する水の勉強会を行う。
- 2) 今年度、10 人のモニターさんでデトックスプロジェクトを実施した結果、八代市で敷地内にある井戸水を使われているモニターさんの 1 回目の尿検査の数値が高かった。その原因は井戸水ではないかと疑われる。2023 年度の事業として、このモニターさんの井戸水を、年間を通して調査する。
- 3) 今年度作成したカエルの動画はとても評判がいいので、オーガニック関係のお店で「見る会」的なものを開き、広げていく。

農家と消費者の参加型調査による農薬の圃場生態系への影響比較(調査・研究、広報・社会訴求)

特定非営利活動法人・西日本アグロエコロジー協会(申請者:池上甲一)

兵庫県丹波市と滋賀県高島市において、田植及び出穂期の前後に生き物調査及び農薬の残留濃度分析を行い、浸透性農薬を中心に農薬による圃場生態系への影響を検証する。有機農業と慣行農業の水田及び水源からサンプルを採取し、ポスト・ネオニコ系農薬を含めて残留濃度を解析する。その結果を生き物調査と対照する。生き物調査のうち、2回は子どもと親を対象とする参加型調査とする。成果は報告会、冊子、SNSにより情報発信する。

ネオニコチノイド系農薬による母性行動への継世代影響(調査・研究)

神戸大学大学院 農学研究科 動物分子形態学分野 星研究室(申請者:星 信彦)

先行研究では、胎子・授乳期でのネオニコチノイド系農薬(ネオニコチノイド)曝露によって母性行動の変化がみられ、継代的に食殺や育子放棄が増加した。この原因の一端としてオキシトシンおよびプロラクチンの分泌減少が示唆された。ネオニコチノイドが母性行動にどのような影響を及ぼすのか明らかにすべく、分娩前の巣作り行動や分娩後の産子のリトリービング試験から、母性行動を評価する。さらに、その変化が継代的に引き継がれるのか検証する。

岐阜県の給食オーガニック化を進める上映会(広報・社会訴求)

給食ネットワーク岐阜(申請者:服部 晃)

「食の安全を守る人々」の上映会。「静かな汚染ネオニコチノイド」を同時上映。昨年は13会場で実施。

今年は現在6市1町で開催予定。各地で教育委員会の後援を取り、案内チラシを小中学校保育園に全員配布する。各会場で実行委員会を作り、上映後地域のオーガニック給食推進の母体に育成する。各地で有機農家・地元議員・地元農家を含めた座談会を開催し、オーガニック化を一歩ずつ進展させる。

脱ネオニコで地域活性化(広報・社会訴求)

猪瀬 聖

ネオニコの最大の脅威は人の健康への重大な影響だが、それを一般の人にも理解しやすい可視化した形で証明するのは現時点では非常に難しく、社会訴求する上での大きな壁となっている。そこで、地域から農薬の象徴としてのネオニコを追放することにより、豊かな自然を取り戻し、若い移住者を増やし、地域活性化に成功した、あるいはしつつある地域の例を取材・記事化し、ネオニコへの一般の関心を上げるとともに、行政の脱ネオニコの取り組みを促す。

ため池や自然止水域におけるネオニコチノイド系農薬の汚染状況と絶滅危惧水生昆虫の生息状況の相関調査 V(調査・研究)

苅部治紀

過去 4 年間の貴助成により、ほとんど情報がなかった自然止水域での汚染実態と昆虫相調査が進捗した。結果、1)国内広域で検出、2)絶滅産地で高濃度検出、現存産地でも検出、3)汚染は地下水系に及ぶ、など深刻な実態を明らかにしてきた。この間新型コロナの影響を強く受け、調査は完遂できない状況が続いている。継続申請する本研究では、農薬濃度が高い時期の未調査地域の調査、虫体の汚染実態試験、農薬の暴露試験研究などを実施し、研究を深化させたい。